

第 55 回全国高等学校将棋選手権大会愛知県大会 報告

2019 年 5 月 4 日（土）・5 日（日）の 2 日間、のべ 400 名を超える県内の高校生が、名古屋高校に集まった。この大会は愛知県高校将棋連盟、愛知県高文連、日本将棋連盟東海普及連合会・愛知県支部連合会、中日新聞社の共催で、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、愛知県私学協会の後援を受けている。

大会結果を簡単にお伝えする。5 月 6 日の中日新聞朝刊にも、大会結果が男子個人戦トーナメント初戦の写真とともに掲載されている。こちらもご覧いただきたい。

★ 団体戦 5 月 4 日

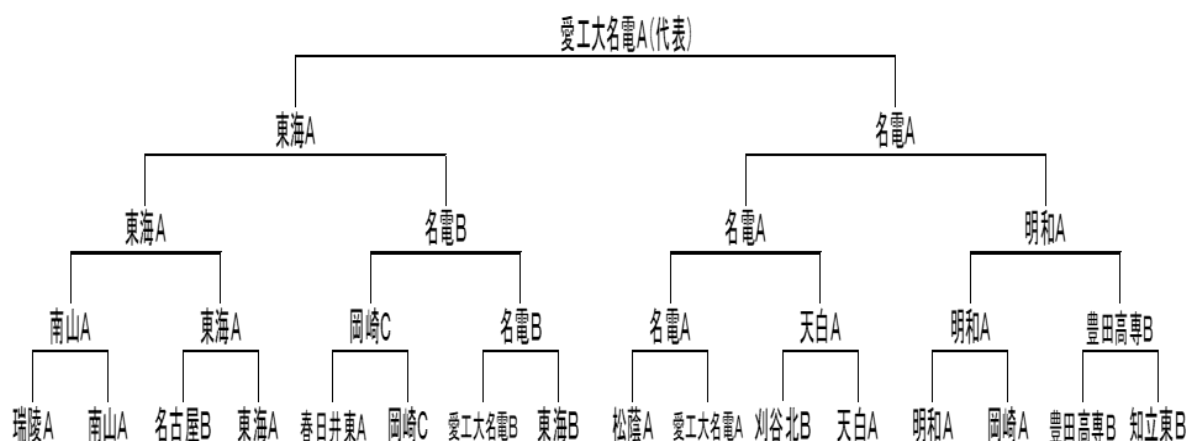
初日は団体戦（3 人 1 チーム）で、1 校から何チームでも出場できる。男子は 30 校から計 61 チームが、女子は 2 校から計 2 チームが参加した。男子については学校数・チーム数とも近年で最多となった。

男子団体は 4 チーム（一部 3 チーム）をひと組にし、16 組に分かれて総当たりの予選リーグを行い、各組 1 位の 16 チームが決勝トーナメントに進出した。

午後のトーナメントでは、東海三県大会で A 級に属する学校が順調に勝ち進んだ。同大会 6 連覇中の名電 A チームは、準決勝で明和 A に昨年度決勝の雪辱を果たし、決勝では東海 A に勝って、2 年ぶりの優勝を達成した。メンバーの 3 人は昨年と全く同じで、2 年越しの優勝に感慨もひとしおであった。

女子団体は南山女子部が昨年度全国優勝のため、県高校将棋連盟の内規により無条件で県代表に。それ以外にエントリーした津島東を含め、今年度は 2 チームが全国大会に出場する。

～男子団体戦決勝トーナメント～



★ 個人戦 5月5日

愛知県大会 2 日目は個人戦が行われる。県によっては団体・個人同日開催（一方のみ参加可）であったり、個人戦が先に行われたり、様々である。前日の団体戦で優勝した選手を除き、男子は 41 校 218 名が、女子は 5 校 6 名がそれぞれ上位 2 名の代表枠を目指して対局した。

男子は初めからトーナメント戦である。4 回戦まで終わるとベスト 16 が出そろい、そこで再抽選して A B の 2 組に分かれ、それぞれのトーナメントの優勝者を県代表とした。A 組決勝は山田佳明君（東海 1 年）と河合勇樹君（岡崎 2 年）の対戦となった。山田君の先手中飛車に河合君は角道を開けない急戦策。中盤で攻め駒をきれいに捌いた河合君が、粘る山田君を振り切って勝ち。B 組決勝は伊藤巧君（名電 1 年）と伊藤光祐君（明和 2 年）の対戦で、相振り飛車の戦型に。巧君の攻めが快調のようでも光祐君の反撃が厳しく、最後は「玉は下段に落とせ」の格言どおりの寄せを見せて光祐君の勝ち。

今回の男子個人戦では、1 年生が多く上位に進出した。今後も活躍が予想される。

女子は「8 名以下は総当たり」という内規により、6 名による総当たりリーグ戦を行った。各種女性大会で活躍し全国区の磯谷祐維さん（中部大春日丘 2 年）、東海研修会上位の森本理子さん（滝 1 年）が 4 回戦で当たり、残り時間が切迫するなか寄せ切った磯谷さんが勝ち。結果として磯谷さんは全勝で優勝、森本さんは 1 敗で準優勝となった。3 位には大田暖乃さん（名大教育学部附属 1 年）が入賞している。

～男子個人戦トーナメント（ベスト 16 以降）～



今年の高校将棋選手権全国大会（全国高校総合文化祭将棋部門）は、佐賀県江北町で 7 月 30 日、31 日に開催される。全国でも激戦区のひとつである愛知県予選を通過した名電、南山女子部、津島東の各校、河合君、伊藤君、磯谷さん、森本さんの活躍が楽しみだ。

（以上、日本将棋連盟東海普及連合会HPより抜粋）